

# 患者を生きる

3153 感染症

C型肝炎は患者の多さから「国民病」とも呼ばれている。ウイルス感染者は100万〜150万人と推計され、感染に気づいていない人が相当いるとみられる。

ウイルスは血液を介して感染する。主な感染経路は、高感度の検査が導入される前の輸血や、ウイルスの不活化処理が十分でなかった血液製剤、かつての医療現場であった注射器の使い直しなど含まれている。このため、感染者は60代以上が多い。近年は、ピアスやタトゥーの針の使い回しが原因と

みられる若者の感染も目立つ。

感染は血液検査でわかる。職場などの定期的な健康診断の項目に含まれていないところもあり、厚生労働省は、少なくとも一度はウイルス検査を受けるよう呼びかけている。保健所では無料で受けられる。

C型肝炎は自覚症状が乏しく、気づかないまま慢性肝炎や肝硬変、肝臓がんへと進行する可能性がある。肝臓がんは国内で年間約3万人が死亡している。肝臓がんの患者のうち約60%がC型肝炎ウ

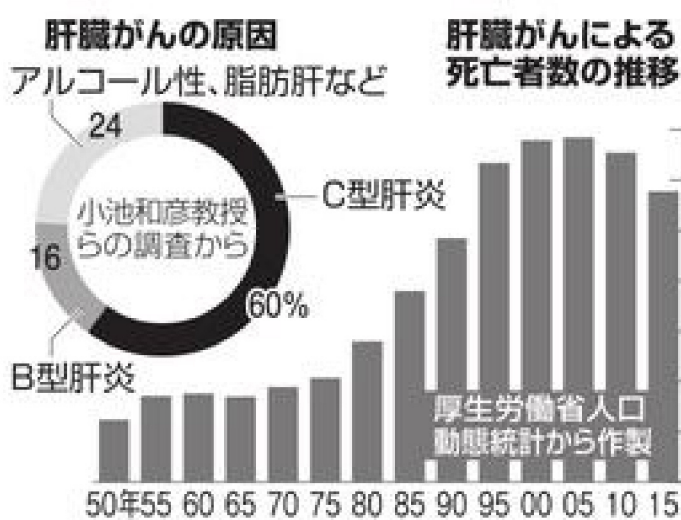
## 一度はウイルス検査を

伍代夏子の覚悟⑤情報編

ウイルスに感染しているという。

治療は大きく進歩している。連載で紹介した伍代夏子さん(54)が受けた治療は、インターフェロン注射と抗ウイルス薬のリバビリンの組み合わせだった。2014年から副作用の強いインターフェロンが不要な飲み薬が複数登場、公的医療保険が使えるようになった。これらの飲み薬は臨床試験(治験)では9割前後の患者がウイルスを駆除できたとされ、3カ月間の服用が治療の主流となった。新規感染者の減少や治療の進歩

で、肝臓がんによる死亡者数は減少傾向にある。日本肝臓学会理事



長を務める小池和彦・東京大教授(61)は「治療の選択肢が増え、感染に気づいていない人や受診してない人がきちんと治療すれば、将来的にC型肝炎はなくしていくべき病気だ」と話す。

ただ、治療でウイルスが体内から排除されたにもかかわらず肝臓がんを発症したケースが報告されている。国立国際医療研究センターの考藤達哉・肝炎・免疫研究センター長(56)は「肝炎ウイルスが消えても、5年くらいは半年〜1年ごとにエコーなどによる画像検査を受けることが大切」と指摘する。(松本千聖)

■ご意見・体験は、氏名と連絡先を明記のうえ、[iryoy-k@asahi.com](mailto:iryoy-k@asahi.com)へお寄せください。



「患者を生きる」は、有料の医療サイト・アピタル(<http://www.asahi.com/apital/>)で、まとめて読めます。